

平成16年度 加茂市議会 医療問題特別委員会 行政視察報告書

平成17年3月11日

1. 日程 平成17年2月2日～4日

2. 視察先 岩手県内 紫波町、江刺市

3. 視察目的と調査内容

・岩手県医療局は、平成15年11月13日「県立病院改革基本プラン」を公表。

その主な内容：累積欠損金90億円、空きベッド数等の課題提起、岩手県立27病院の再編、整備病院新築・医師増・看護職員等減、病床減(6,200床→5,600床)、費用減など。

・新潟県病院局は、平成17年1月21日「県立病院改革検討会議・中間報告」を公表。

その主な内容：累積欠損金339億円の赤字体質脱却を提起、新潟県立15病院の再編、統合、委譲、移行、人件費抑制など。

* 上記経過による新潟県立加茂病院問題等を勘案し、岩手県視察地に於ける「県立病院改革基本プラン」の影響・対策等を調査し、医療問題特別委員会の今後に処する。

* その他 救命救急センター及びメディカルコントロール体制について

4. 視察者 委員 今井 詔一委員長 小野吉太郎副委員長 田沢 弘一委員

広野 豊作委員 高井 保委員 大関 勝正委員

関 龍雄委員 佐野正三良委員

随員 石井 信一議会事務局副参事

以上一行9名

紫波町

応対者 工藤眞巨議長 鷹木完夫福祉・文教常任委員長 戸塚健康推進課長
佐々木忠事務局長

【紫波町概要】

人口：3.3万人、 就業人口比率(1次：18.6 2次：25.0 3次：56.4) 町議数：22名
一般会計H16年度予算額：110億6千万円、 財政力指数：0.38 公債費比率：14.7
町長の時局方針「当面は合併せず、自立を目指す。合併は必要に迫られた時考える」

【県立紫波病院経過概要】

S9年 医薬購買販売利用組合盛岡病院付属志和診療所開設

S27年 岩手県立志和病院に名称変更 34床

S39年 病院新築及び岩手県立紫波病院に名称変更 65床

S41年 増築 80床

S49年 隣接地に志和町が健康管理センター建設

H元年 移転新築 65床 現在に至る

同一敷地内に紫波町がデイサービスセンターと特別養護老人ホームを開設

県立紫波病院は、患者数の減少傾向が続いている。

項目・年度	患者数		一日平均患者数		一人一日平均収益		病床利用率
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	
14年度	17760	38913	49	159	20437	4718	74.9
13年度	18977	44444	52	181	19939	6084	80.0
12年度	20303	45153	56	184	18490	6962	85.6
11年度	20539	48729	56	200	16093	6498	86.3

尚、県立紫波病院は、町内患者が90%、保険種別患者では国保が70%を占める。

県立紫波病院は、緊急患者数の増加傾向が続いている。

区分・年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
救急車	86	120	120	110	100	100
その他	1378	1775	1994	2407	2422	2152
合計	1464	1895	2114	2517	2522	2252

【紫波町医療動向】 (国保加入者医療施設利用率・平成14年度)

入院 1位 盛岡赤十字病院：21%(1,030人) 2位 県立紫波病院：12%(643人)
 入院外 1位 盛岡赤十字病院：12%(12,235人) 2位 県立紫波病院：9%(8,857人)

1 「県立病院改革基本プラン」について紫波町の受け止め方

- ・「プラン」では、県立紫波病院を診療所(65床→19床)にする計画が示された。
- ・対する紫波町の反応や視点・・・「町側には説明もない。したがって、なんのこた! という印象です。」という紫波町提供資料文言にあるように相当に驚愕模様。
(よって、同内容を示す紫波町提供資料の一部を別紙参考添付する。)

2 紫波町による主な影響分析

- ・町内開業医のベッド数(認可病床数は470であるが、実質稼働病床数は93床)が、年々減少している。県立紫波病院のベッド減を町内開業医で対応することは困難である。
- ・高齢者の町外医療施設入院が増える。
- ・町内の時間外緊急医療の体制がますます取れなくなり、医療の砂漠化が進む。
- ・町内にセンター病院がなくなることは、医師会も反対している。
- ・隣接する福祉施設(デイサービスセンター、特養ホーム)との関係が希薄化する。

3 紫波町に於ける町当局・町議会・関係団体等の対応

- イ 岩手県への陳情・要望 「県立病院改革に対する要望書」を提出。
- ロ 岩手県町村会への協力依頼
町村会長(紫波町長)が「県民の医療確保・充実に関する提言書」を提出。
- ハ 岩手県議会・地元選出の県議会議員への説明・要望を行う。

ニ 県立病院関係自治体(14団体)で「地域医療を守る対策協議会」を組織する。

県知事、県議会へ県立病院改革への要望書提出。

ホ 町内団体の協力と活動

町内の主要団体を核として署名活動。県知事、県医療局に「病院存続」を要望。

へ 紫波郡医師会・・・診療所化反対(理由：入院患者と緊急医療に対応できない)

4 現況

「県医療局には、今のところ新たな動きは見えない。」と紫波町対応者答弁

【メディカルコントロール組織体制】

岩手県メディカルコントロール協議会を基に、各地域メディカルコントロール協議会(県内11地域：事務局・広域消防本部)があり、市町村の役割は特に無い体制となっている。

江刺市

対応者 千葉 裕健康増進課長、及川幸男事務局長、宍戸 智事務局長補佐

【江刺市概要】

人口：3.4万人 就業人口比率(1次：27.4 2次：31.5 3次：41.1) 議員数：22名
一般会計H16年度予算額：164億4千万円、 財政力指数：0.30 公債費比率：16.6

【県立江刺病院経過概要】

S10 購買利用組合江刺病院として開院 14床 以後厚生連に経営移管

S25 県営移管し県立江刺病院となる 68床

S42 病棟改築 210床

S55 現在地へ移転新築 210床

H8 検査室・人工透析室・会議室など増改築工事竣工

H13 H10年からの病院全面改修工事(総事業費約20億円)竣工、210床、現在に至る

県立江刺病院現況 (江刺市唯一の病院)

医師(正規9+臨時6.2)(岩手医大の非常勤医師：皮膚、産婦人、眼、放射線、脳神経外科)

H16年度欠損見込額約2億円 1日当り患者数 入院：142人、外来：580人

地域患者割合 入院：江刺市民97.7% 外来：江刺市民96.3%

江刺消防署の救急患者搬送状況 県立江刺病院へ60.3% 胆沢病院へ25.9%

平成15年11月13日公表の「県立病院改革基本プラン」に対する江刺市の対応

(「プラン」では、県立江刺病院は地域基幹病院から地域総合病院となり、サテライト施設に格下げとなる。さらに江刺市を含む胆江医療圏で60床の減を図る計画。)

1 平成15年11月21日

県民医療の確保に関する意見交換会に出席 (県市長会及び県町村会長主催)

県立病院改革基本プランについて医療局長説明

- 2 平成15年12月5日
県立病院改革基本プランに対する意見書を提出（市長→医療局長）
 - 3 平成15年12月16日
地域基幹病院として存続を求める意見書提出（江刺市議会議長→知事、医療局長）
 - 4 平成15年12月17日
胆江保健医療圏の県立病院運営協議会委員への説明会出席（市長、健康増進課長）
 - 5 平成15年12月25日
県立病院改革基本プランに対する要望書を提出（市長、議長連名→知事、医療局長、水沢地方振興局長）
 - * 医療局長が、前日(24日)の県立病院長会議で「江刺病院と一戸病院は地域総合病院としての機能を存続させる」と明言したと、江刺病院長から健康増進課長に連絡。
 - 6 平成15年12月26日
県立病院改革に対する要望書を提出（影響を受ける14市町村長連名→県議会議長）
 - 7 平成16年1月8日
1月7日の県立病院事務局長会議で医療局長が、「江刺病院は今までどおり、地域総合病院として存続させる」との発言を、江刺病院事務局長から江刺市健康増進課長に連絡。「但し、ベッド数の減少あり、その他の機能は今までどおり。今後はサテライト施設という名称は用いず」
 - 8 平成16年2月2日
県立病院改革に対する要望書を提出（地域医療を守る関係14市町村対策協議会、14市町村長連名→知事・医療局長）
 - 9 平成16年2月18日
県医療局、改革実施計画を公表。その内容は、県立江刺病院は地域総合病院として診療科目を維持。尚、病床数は17年度に210床→150床(60床減：1病棟分)
 - 10 平成16年6月18日
「県立江刺病院の医師確保について」の要望書提出（市長・議長連名→知事）
- 以上江刺市における経過

その他 「県立病院改革検討会議・中間報告(平成17年1月21日)」と医療問題特別委員会

- 2月14日 加茂市選出 金谷県議と面談
 - 2月21日 新潟県議会 自由民主党幹事長、政調会長 に要望書提出と根拠、背景説明。
 - 3月1日 新潟県議会各党派(社会民主県民連合、新潟県を発展させる未来の会、無所属の会、公明党、日本共産党、無所属議員)議員に要望書提出と説明。
- 「要望書」の主な内容…地元と十分協議すること。医師不補充や機能縮小は看過できない。
加茂病院へ救命救急センターを設置すること。等